

達成度：H23.3.31 の自己評価

- 5 目標を完全に達成した。
- 4 目標を概ね達成した。
- 3 目標を一部達成した。
- 2 目標をほとんど達成できなかった。
- 1 目標をまったく達成できなかった。

## 財政課の目標（平成22年度）自己評価書

財政課長 櫻井 照嘉

個別事業とその目標	達成度	目標達成の効果又は達成できなかった理由等
<p><b>1 行財政改革の推進</b></p> <p><b>(1) 財政健全化の推進</b></p> <p>財政の健全化を図ることが町の急務であり、全体事業を見直すとともに簡素で効率の良い予算執行を指導します。</p> <p>予算編成に当たっては、酒々井町財政健全化緊急対策計画を見直し、現状を把握しながら歳出の削減と歳入の確保に努め、財政の健全化に努めます。</p> <p><b>(2) 新公会計制度の整備促進</b></p> <p>今後進められていく新たな公会計制度への移行に備え、財務諸表の基盤となる公有財産台帳等の整備の促進を図ります。</p> <p><b>(3) 公有財産の管理</b></p> <p>公有財産のうち、活用されていない財産について公有地活用検討委員会で検討を行い、処分を含めた適正な利活用について継続的に検討します。</p> <p>活用、処分については、厳しい財政事情の中でもあり財源の確保に繋がるように活用の推進を図ります。</p>	<p>4</p> <p>5</p> <p>3</p>	<p>財政健全化については、酒々井町財政健全化緊急対策計画の見直しや予算編成並びに予算執行を通して全課にわたり削減や節約に努めてきたが、景気回復の遅れ等から、町税の落ち込みにより、財政運営は厳しい状況が続いている。しかしながら、国による「経済対策」や「緊急雇用対策」などによる交付金を最大限活用することにより、将来に対する財源確保のための財政調整基金残高は、結果として前年度末の残高を大きく上回ることができた。</p> <p>公有財産台帳の整備が完了し、新地方会計制度に対応した財務諸表の基礎データの利用が可能となった。</p> <p>新たな公有地を活用することはできなかったが、契約満了の公有地（京成酒々井駅前広場）については、再契約をし、引き続き財源の確保を図ることができた。</p> <p>適正な利活用についての検討を今後も模索していきたい。</p>

<p><b>(4) 契約制度改革の推進</b></p> <p>入札及び契約については、法令等に基づき必要な措置を講じて適正に推進してきたところであります。平成21年度に導入した電子調達システムを利用した電子入札を本年度から建設工事の本格実施、更に翌年度からは測量・コンサルタント、物品、委託の対象案件を順次拡大し、入札手続きの透明・公平性の確保、競争性の向上、入札参加者の負担軽減、入札契約事務の効率化を図る必要な体制の整備を行います。</p> <p>また、検査体制の充実を図り、職員全体の予算執行の適正化を図ります。</p>	<p>4</p>	<p>電子調達システムの導入により、建設工事における入札手続きの透明・公平性の確保、競争性の向上、入札参加者の負担軽減及び入札契約事務の効率化が図られた。</p> <p>引き続き予算執行の適正化を図っていきたい。</p>
---	----------	--